日本しだ類ニュース (其七)

伊藤 洋

Hirosi ITÔ: Nuntia de Filicibus Japonensibus (VII)

19) しまいはひめわらび

小笠原母島ニいはひめわらびニ似タ大形ノしだガアル。中井博士ハ屢々、内地ノト違フ種類デハナイカト云ハレタガ、今回調ベテミルト果然いはひめわらび *Hypolepis punctata* METT. 卽チ本州ノ暖カイ地方カラ四國、九州、朝鮮南部、琉球、臺灣等ニ分布スルモノト別種デアル事ガ判ツタ。ソノ上、圖ラズモニユーギニヤ産ノ *H. Bamleriana* ROS. ト同ジデアルト云フ結論ニナツタ。今兩者(以後 p 及ビ B ト略シテ書ク)ノ區別點ヲ擧ゲルト: B ハ非常ナ大形デ高サ 1.5–2 m ニ達スルガ p ハソンナニ大キクナラナイ、又 B ハ葉柄ガ太クテ直徑 1.2 cm 餘リニモナルガ p ハ極ク細イ、最下羽片ハ B デハ斷然大キク幅廣デ卵形ヲ呈スルガ p デハ披針形又ハ三角狀長卵形デ下カラ第 2 番目ノ羽片ヨリモ小サイノガ普通デアル、更ニ B ハ 5 回羽狀ニ深裂又ハ中裂スルガ p ハ 3–4 回深裂スルニ過ギナイ。和名ハしまいはひめらびト決メル。小笠原列島デハ母島ノ他南硫黄島デモ發見サレ、又九州屋久島デいはひめわらびトシテ報告サレテ居ルモノノ一部モ本種デアル事ガ判ツタ。同ジ太平洋岸デハアルガニユーギニヤト日本トニ分布スルト云フ事ハ面白イ事實デアル。第 1 圖ハソノ最下羽片 1 枚ダケヲ撮ツタモノ(母島産)。

Hypolepis Bamleriana ROSENSTOCK in FEDDE Repert. **10** 325, 1912.

Syn. *Hypolepis punctata* METTENIUS; MASAMUNE Flor. Geobot. Stud. Isl. Yakusima 85, 1934 p.p.

Distributio nove inventus: Bonin et Kyûsyû (Japonia).

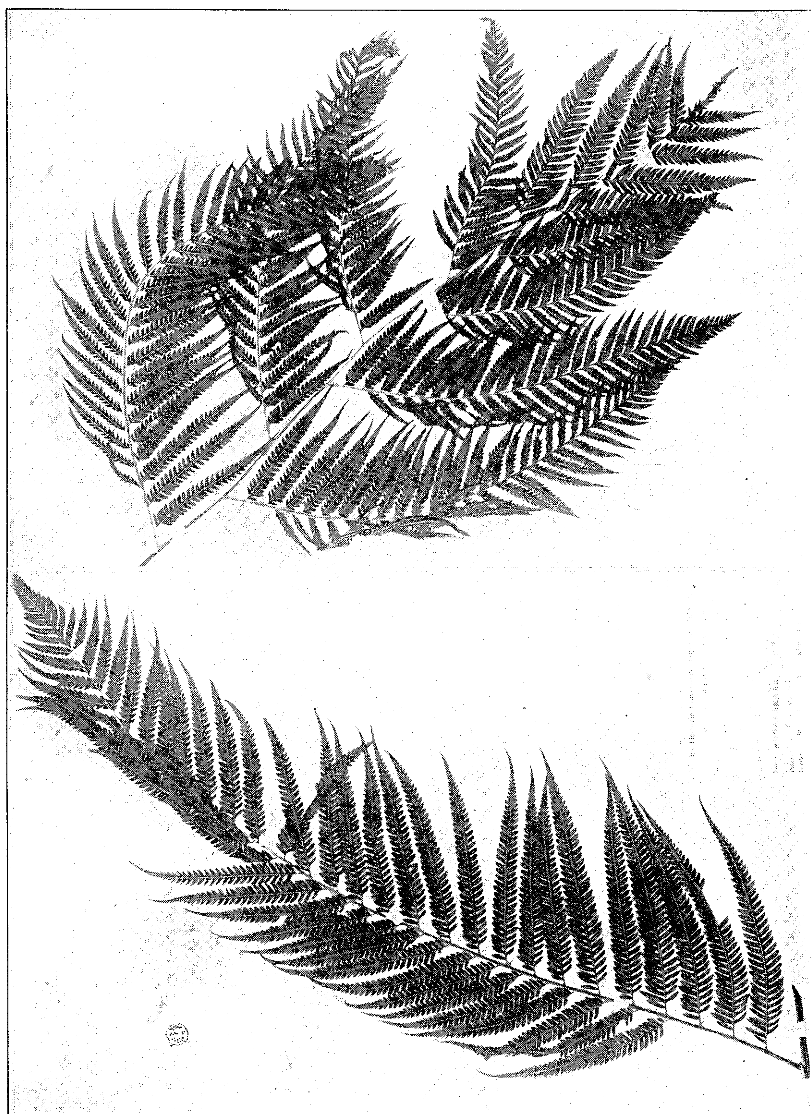
Bonin—Ins. Hahazima: in monte Tibusayama (leg. K. KAWATE 1913, A. YAMAMOTO 1930, T. TUYAMA 1935), in monte Kuwanokiyama (leg. T. NAKAI 1932), in monte Sekimon'yama (leg. T. TUYAMA 1933); Ins. Minami-iwôtô (Ins. San Augustino, leg. T. TUYAMA 1936); sine loco speciali (leg. T. NAKAI 1928).

Kyûsyû—Prov. Oosumi: Ins. Yakusima (leg. G. MASAMUNE 1927, H. Itô 1937).

20) たかわらびノ羽片

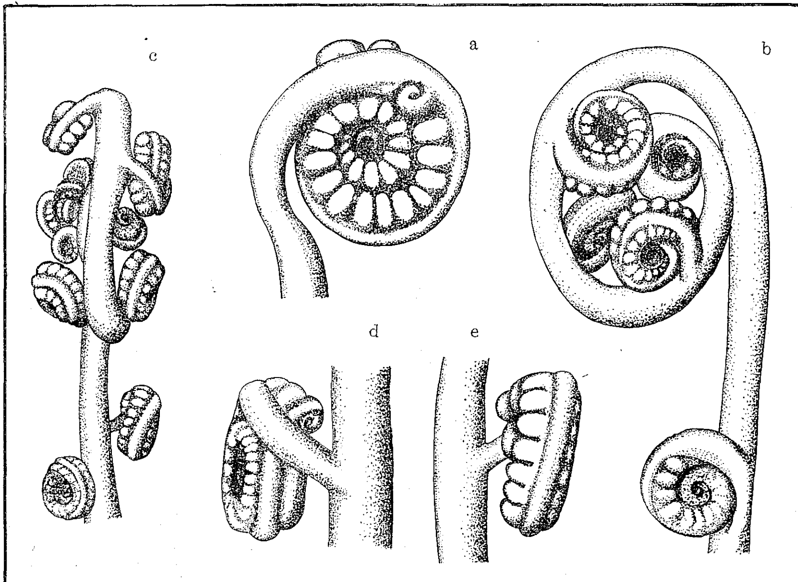


第1圖　しまいはひめわらびノ最下羽片
Hypolepis Bamleriana Ros.: Pinna infima ×1/3



第 2, 3 圖　くみんたかわらびノ羽片（×1/4）
Cibotium Barometz J. SM. var. *Cumingii* C. CHR.

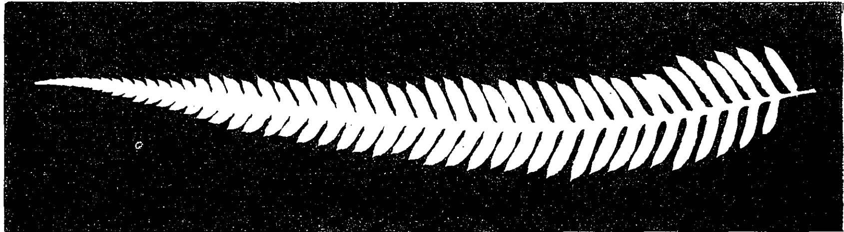
たかわらび一名ひつじしだ *Cibotium Barometz* J. SM. ハたかわらび科 *Dicksoniaceæ* ニ屬スル大形ノしだデ、インドノ東北部、マレイ半島、印度支那南支那等ニ廣ク分布シ、日本デハ臺灣ト琉球（沖繩島以南）ニ産スル。沖繩縣ノ西表島（イリオモテ）ニハ非常ニ多ク、山足ノ斜面等ニハ美事ナ群落ガ澤山アル。第2,3圖ハ昨年行ツタ時採集シテ來タ標本ノ一部デ、第2圖ハ先端部ノ數個ノ羽片、第3圖ハソレヨリズツト下ノ方ノ羽片デ、下カラ數ヘテ6對目ノ左側ニアタル。尙ホコノ標本ハくみんたかわらび[1] var. *Cumingii* C. CHR. ト云フ變種ノ方デアル。又チヨツトオ斷リシタイノハコノ個體ハ特ニ裂片ノ狹イ極端形デアツテ、現地ニハモツト幅廣ノモノヤソノ中間形等色々混ツテ生エテ居タ。從ツテコノ場合裂片ノ廣サハ分類學的ニハ大シテ意味ガナイノデアル。サテコノ寫眞ヲヨク見ルト、羽片ノ下側基部ニ位スル2,3小羽片ガ缺ケテ居ルノニ氣ガツク、同樣



第4圖　くみんたかわらびノ嫩葉ノ先端附近（擴大）a ハ極ク若イモノ。b ハ少シ成長シタモノ。c ハソレヲ後カラ見タモノ。d 及ビ e ハ一ツノ羽片。

[1] たかわらびト云フ和名ハ牧野博士ガ植物學雜誌第8卷413頁デ始メテ發表サレタモノデ、ソレハ田代安定氏ガ 1887 年沖繩縣八重山島デ採集シタ標本ニヨツタノデアル（同氏ノ標本ノラベルニハたかわらび沖繩方言ト記入サレテアル）。所ガコノ標本ハ中井博士ガ同誌第 41 卷 66 頁ニ書カレタ様ニ var. *Cumingii* ノ方デアル。故ニ嚴密ニ考ヘルトコノ變種ノ方ガたかわらびノ名ヲ獲ル譯ニナルノデアルガ、日本植物總覽等ニモくみんたかわらびトシテヨク知ラレテキルノデ此處デハくみんたかわらびト云フ和名ヲ用ヒル事ニシタ。

ニ各小羽片ニツイテ見テモソノ下側基部ノ 1,2 裂片ガ無クナツテ居ル (第5圖デモヨク見エル)。コレハ決シテ脱落シタノデナイ事ハ少シモ跡ガ殘ツテ居ナイ事デ判ル。私ハ不思議ニ思ツテ、行ク先々デ注意シテ見タガ、ドノ個體デモコノ現象ガ觀察出來タ。ソコデ私ハ先ヅ嫩葉ヲトツテ見タ。所ガ何ト要領ノヨイ構造ニナツテ居ルデハナイカ。今第4圖ノスケツチニ就イテ簡單ニ說明スルト、中軸ガ卷イテ居ル爲ニ各羽片ハ仕方ナシニ中軸カラ斜メニ出ル事トナル、併シソノ場合羽片ノ卷イタ面ハ中軸ノ卷キ面ニ對シテ殆ンド平行ナ位置ヲトルモノデアルカラ、d デ見ル樣ニ基部下側ノ小羽片 2,3 枚ノ出ル位置ガ羽軸ノ爲ニ邪魔サレテソコノ小羽片ハ出ラレナイ事ニナツテシマウ。或ハソコニ小羽片ガナイ爲ニ羽軸ガウマクハマルノカ。兎ニ角ドチラニシテモ實ニ無理ノナイ構造デハナカラウカ。羽片ト小羽片トノ關係ニモ亦同樣ナ事ガアテハマル。最近コノ事ニ就イテ友人ト話シテ居ルト「裂片ノ長サノ關係ガ面白イゼ」ト云ツタ人ガアル。ナル程一ツノ小羽片ヲトツテ (第5圖ヲ御覽下サイ)ヨク見ルト、各裂片ノ長サガ週期的ニ變化シテ居ル、即チ裂片ノ先端ヲ連ネル線ハ波狀ヲ呈スルノデアル。恐ラクコノ波狀ノ山ト山、谷ト谷ハ夫々卷イテ居タ時同ジ方向ニ



第5圖 くみんたかわらびノ小羽片1枚

位置シタト思ハレル、ツマリコレニヨツテ渦卷ガ何回卷イテ居タカ判ル譯デアル。注意スレバコノ樣ナ關係ハ羽片ニモ小羽片ニモ見ル事ガ出來ル。勿論ココニ述ベタ樣ナ事ハホンノチヨツトシタ觀察ヤ思ヒ付キト云フダケニ止ルモノデアツテ大シテ實驗的ニヤツタ譯デモナイガ、モシコノ樣ナ事柄ヲ發生學的ニ見タナラバ必ズヤソコニハ幾多ノ新事實ガ掘リ出サレルニ違ヒナイ。例ヘバ羽片渦卷ノ相互ノ重リ工合、從ツテ成長シタ羽片ノ相互ノ位置、渦卷ノ形態 (中央ノ凹ミ等) ヤ大キサ、互生シタ各羽ノ附着點間ノ距離ト夫等トノ關係等興味深サウナ問題ガ多數轉ツテ居ル樣ナ氣ガスル。「實(ゲ)ニ樂シキハ博物學者(ナチユラリスト)カ」ト先人モ書イテヰルガ、自然ヲ友トスル吾人ハ何ト幸福デハナイカ。